

目次

キャンペーンの前に:プレイヤー編	2
キャンペーンの導入	2
キャンペーンの前に:ゲーム・マスター編	4
物語の概要	4
アドベンチャーの使い方	4
追加ルール	4
このキャンペーンの舞台	6
プレヴィオ号の航海	12
キャンペーンの導入	12
プレヴィオ号について	13
幽霊船カラシガニ号	14
珊瑚海血に染めて	18
外洋の脅威たち	22
雷の青銅竜	26
アドベンチャー案	30
これは何か?	30
あとがき&おくづけ	32

はじめに

本書『プレヴィオ号の航海』はダンジョンズ&ドラゴンズ第5版用で3レベルのプレイヤー・キャラクター(PC)が4人でセッションを行ない、1~3時間ほどで終わることを想定したアドベンチャーを4本収録したアドベンチャー集である。

4本のアドベンチャーは連続してプレイすることを想定されたキャンペーンであるが、それぞれ単体で遊ぶことも可能である。

なお、本書に収録されているアドベンチャーでは地図による表現やモンスターの具体的な配置は設定していない。対話の中で情景を決めるのも一興であること、基本ルールが地図を使用していないこと、紙幅の都合があること、作者の技能が乏しいことなど、さまざまな事情がある。

This work includes material taken from the System Reference Document 5.1 ("SRD 5.1") by Wizards of the Coast LLC and available at <https://dnd.wizards.com/resources/systems-reference-document>. The SRD 5.1 is licensed under the Creative Commons Attribution 4.0 International License available at <https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode>.

This work includes material from the System Reference Document 5.2 ("SRD 5.2") by Wizards of the Coast LLC, available at <https://www.dndbeyond.com/srd>. The SRD 5.2 is licensed under the Creative Commons Attribution 4.0 International License, available at <https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode>.

本文中に記載されている会社名、製品名等は、各社の登録商標または商標です。本文中では™、®マーク等は明記していません。

本書の読み方

このような枠の中にある文章は、キャラクターたちがその状況になった時、そのまま読み上げるか、そのようなことがあると説明するためのものです。

本文中、モンスターは**太いゴシック体**で、呪文や魔法のアイテムは**太い明朝体**で書かれている。モンスターや魔法のアイテムはその近くにデータも書かれているので、GMには便利なはずだ。

キャンペーンの前に:プレイヤー編

キャンペーンの導入

旅人や商人で賑わう港町のスリカトゥにやって来た皆さんには、町の広場にある雇い人を募集する看板を見てみました。すると、乱暴にダガーで留められた1枚の紙が目にあります。それにはこう書かれています。

『タイレス島までの往復を護衛してくれる者たちを求める。片道基本給50GP、加えて日当10GP。三食飯あり。くわしくは港のプレヴィオ号まで』

このキャンペーン・アドベンチャーで、君たちのキャラクターはスリカトゥという港町の広場にある掲示板に留められた上記のような貼り紙を見て、プレヴィオ号に集うところから始まる。

『うららかなる地での冒険』との関係

スリカトゥは前作『うららかなる地での冒険』の舞台であったウェルニム地方のウェルブレスからはおよそ450km(300マイル)南東にある。その冒険で使ったキャラクターたちを使うのもよいだろう。

スリカトゥの町

ここではキャラクターたちが旅立ちの前に訪れているスリカトゥについて説明しよう。

スリカトゥは大陸南西部の“穏やかな頸”と呼ばれる湾の奥にある。この町の名は南から船で訪れる居住地を拓いた海エルフたちが海の穏やかさにあやかってつけた湾の名である。

ここは名前通り、ふたつの半島に囲まれた穏やかな内海の町で、半分は陸にあるが、もう半分は海上の広い浮桟橋に家を建てたり、船を係留したりと海エルフの流儀で造られた区域である。

陸には商売人や裕福な者が住み、海には貧乏人や旅人、船乗りをよく見かける。

大陸沿岸と外洋、さらには川船まで水上交易の拠点になっているため、町にはさまざまな種族が行き交い、よそ者への警戒心は薄い。

スリカトゥの特筆すべき場所は以下の通りだ。

“航海者”の会堂

かつてエルフを“この世界”まで導いたと伝わる“航海者”を称えるための会堂。ティライアというものはや顔に皺が見えるほどの年齢となったエルフの女性が、かれこれ数百年間守人を務めている。

浜辺に木で建てられ、天井から光が差し込むので爽やかな雰囲気を感じられる町の名所だ。種族を問わず航海の験を担ぐ船乗りが多くやってくる。

古の高貴なエルフは真の名を使わない習慣があったため、航海の守り手である彼、あるいは彼女の名前も“航海者”的ふたつ名が残るだけである。

酒場“どん底ゾンビ”亭

古い船をそのまま使っている酒場で、ならず者たちのたまり場。禿頭で日焼けした寡黙なヒューマンの店主が切り盛りしているが、彼の名を知る者はいない。店の奥にはゲルブというこれまで寡黙なミノタウロスの巨漢が用心棒として睨みを利かせている。

ゲルブは酒の呑み合い勝負を好み、下記の火酒を最後の1人が潰れるまで呑む勝負を持ちかけることがある。参加者はいくばくかの金を掛け、勝者は金を総取り、酒代は敗者で頭割りだ。これをやるとき、店の常連やゲルブは1d6GPを出す。

この店の名物は店主がどこから買い付けてくる火酒(1杯1SP、難易度15の【耐久力】セーヴィング・スローに失敗すると1d4時間毒状態になる)だ。

ジェイラの下宿

黒いヴェールを目深に被り、憂鬱そうな口元が印象的なメドゥサのジェイラが古い船の船室を使って営む下宿屋。

2人部屋が6部屋あり、家賃は1人1日あたり1SP。10日分以上の家賃の前払いを求められる。

家主は家賃の滞納に厳しく、1日でも支払いが遅れれば、入居者の荷物を全部売り払って家賃と迷惑料にして、裸一貫で放り出すので有名だ。

タッフィ婆さんの店

海エルフが訪れる前から浜辺に住んでいたと囁かれる老婆、タッフィが営むよろず屋。彼女は耳が遠いが、いつもにこにこと愛想がいいため、常連客も多い。

彼女はポーション作りの名手で、通常のポーション・オヴ・ヒーリングの他に、7日に1本ポーション・オヴ・グレーター・ヒーリングを作り400GPで店に並べている。

ポーション・オヴ・グレーター・ヒーリング

Potion of Greater Healing/上級癒しの水薬

ポーション、アンコモン

このポーションを飲むと、君は4d4+4のヒット・ポイントを回復する。ポーションは振るとキラキラと輝く赤色をしている。

“提督”的船

“提督”と呼ばれるノームの男性が住む船。彼は町にいくつかの船を持ち、人に貸したり、乞食を養い噂話を収集させて売買したりするのが生業だ。

彼が商う情報の相場は、そこらの者の秘密なら10GP、自分の店で商いをするくらいの者の秘密なら50GP、有力な商家の醜聞なら250GPだ。

彼から情報を買った者は「“提督”からこれこれの情報を買った」という情報を彼が握ることを忘れてはいけない。

レイウォスの家

写本屋を営むレイウォスというハーフエルフの男性が住む家。海が見える小高い丘の上にある。彼はしばしば旅をして、さまざまな珍しい物を持ち帰るのが趣味である。

彼はウィザードの初級呪文のスクロールを30GP、1レベル呪文のスクロールを50GPで売っている。注文制で1つにつき1日が必要である。スクロールの詳細はGMに教えてもらうこと。

彼は庭にある檻の中で冒険の途中で見つけて慣らした(と彼は主張しているが度々脱走している)チーという名のコッカトリスを飼っている。

宿屋“三十の牙”亭

店の入口にさまざまなクリーチャーの牙が30本飾られているのが目印の宿屋。その見た目通りに冒険者たちがよく出入りしている。

この宿では“質素”か“快適”的部屋と食事を提供している。

ルニイーイル神殿

海の男たちによく信仰されている世界に吹く風と一瞬の心変わり、そしてそれによって流転する運命を権能とする女神、ルニイーイル(混沌にして中立)の神殿。建物の中は富を築いた船乗りたちによる寄付で美しく飾り立てられている。しかし、女神の神像はかつてこの地に漂着したと伝えられる塗装もほとんど剥げた質素なものである。

